

第三次西東京市地域福祉活動計画 取り組みの成果と今後の方向性

(居場所づくり部会)

区分	具体的な活動内容	Plan(計画)	取り組んで良かったこと(まとめ)	今後の活動の方向性
イ	誰もが立ち寄れる雰囲気のある居場所をつくる	○ 活動者を増やす	<ul style="list-style-type: none"> <li>・サロン参加者から3名がスタッフになった。</li> <li>・「居場所づくり実践の手引き」を作成し、サロン立ち上げ講座などで活用できた。(改訂版の作成も行った。)</li> <li>・子ども(幼児やその親)の参加もあり、色々な年齢層が来ることで、サロン活動の幅が広がった。</li> <li>・週に1回のサロン運営をすることにより、自分達自身の生活リズムの維持やフレイル予防にもなっている。</li> <li>・参加者が、1回休んでも毎週実施していることでインターバルが空かず、気兼ねなく次回参加ができる。</li> <li>・サロンに来る子供たちが、サロンの外であっても声をかけてくれる。(困っていることをスタッフに伝えてくれる)</li> <li>・(サロン交流会などで)よってらっしゃいの評判がよい。自分達のしてきた活動が認められた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域活動拠点が継続しているかぎり、サロンは継続していく。(自分達の生活リズム、参加してくれる人の期待がとても大きい)</li> <li>・中学生・高校生がボランティアで来てくれるようになるとうい(夏の体験ボランティアの受け入れを検討)</li> </ul>
ロ	一緒に活動できる機会をつくる	○ 話し合いの会をつくる	<ul style="list-style-type: none"> <li>・サロン立ち上げ講座に関わり、活動者を増やすことへのきっかけとなった。</li> <li>・サロン実施の後、毎週振り返り会をすることでその日に思いを伝えることができる。</li> <li>・社協のホームページを見たという学生の見学がある。</li> <li>・サロンを開きたいという人の「参考になるサロン(他世代が参加するサロンは珍しい)」として認知されてきている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社協の講座への協力。</li> <li>・今後も見学などは受け入れていく。</li> </ul>

第三次西東京市地域福祉活動計画 取り組みの成果と今後の方向性

(人材部会)

区分	具体的な活動内容	Plan(計画)	取り組んで良かったこと(まとめ)	今後の活動の方向性
イ	“地域スカウトキャラバン”をつくる	○ “地域スカウトキャラバン”を企画実施、報告する	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域タレント名鑑として冊子にまとめ、西東京市社会福祉協議会のホームページ上にも、個人情報開示に許可を得られた方のみ、アップロードすることができた。</li> <li>・成果を可視化することで、必要な方に情報提供を容易にできるようになった。</li> <li>・この活動を通じて、普段出会えないような方など、より多くの方と知り合うことができ、特技を知ることができた。</li> <li>・高齢者でも、特技を生かして、いきいきと生活している姿を目の当たりにすることができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人材部会として抱えていた地域の人材、地域タレント名鑑については、人材が今後も継続して活動できるように、西東京ボランティア・市民活動センターへ引き継いだ。</li> <li>・新たに「地域のお宝(人材)」を発掘することがあれば、ボランティアセンターへの登録を促したり、ふれまち等の活動者・団体につなげていく。</li> </ul>
ロ	人の良いところを見つける活動をする	○ イベントの中で、対象になる人を探すプログラムを展開	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ぼらんていあ倶楽部(平成31年2月15日号)に、地道な人材発掘の啓発として「ふれまち助け合い活動」の記事を掲載した。</li> <li>・記事掲載について、記事の内容を部会員が考えることで、部会員自身が自分の身の回りの地道な人材に気付く機会となった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ふれまち助け合い活動にて、今後も人材の募集、発掘、活動を行っていく。</li> </ul>
ハ	さまざまな交流のきっかけをつくる	○ 交流のきっかけをつくるための企画実施、報告する	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第8回NPO市民フェスティバルやボラフェス2018に参加したことで、特技披露や人材部会の取り組みについて周知することができた。</li> <li>・大きなイベントに参加したことがきっかけで、ふれまち等のイベントに地域タレントを紹介し、活躍の場を増やすことができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ふれまちのイベント等、企画内容にあえばお声掛けしたい。</li> </ul>

第三次西東京市地域福祉活動計画 取り組みの成果と今後の方向性

(情報部会)

区分	具体的な活動内容	Plan(計画)	取り組んで良かったこと(まとめ)	今後の活動の方向性
イ	アナログな情報(回覧板・掲示板等)を再活用する	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 回覧板等の運営方法に関する検討</li> <li>○ 掲載内容の検討</li> <li>○ モデル地域の選定</li> <li>○ 回覧板コンテストの実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・モデル地区の選定については、回覧板が有効に機能している2か所の町内会に協力を仰ぐことができた。</li> <li>・ポスティング等によるアンケート調査を行い、どのような情報が望まれているかについてのニーズの把握ができた。</li> <li>・既存の町内会・自治会で回覧されているシステムに、当部会が目指す回覧板を組み込むことの壁を感じた。</li> <li>・町内会等において、「魅力的な回覧板を活用することによる結果」をみることは出来なかったが、町内会がその方向に動いていく過程で、意識が変わった人が現れたことは収穫だった。</li> <li>・まずは、その活動を行える組織を作ることが先であり、その意味ではデジタルの活用で、若手を巻き込んで組織化してから、根本解決策として、アナログ(回覧板)の企画を動かし始めた方が良かったかもしれない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・超高齢社会においては、アナログな手段による情報伝達は不可欠であるが、伝達方法についてはさらに新たな手段を模索する必要がある。</li> <li>・ある程度組織化された集団(商店会等)があれば、ぜひ、企画として考えてみていただきたい。</li> </ul>
ロ	デジタルな伝達手段を活用する	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 活用方法の検討</li> <li>○ 既存調査の活用</li> <li>○ 現状媒体の調査実施</li> <li>○ 広報、普及に関する検討</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・フェイスブックに当情報部会が運営する「西東京まちの魅力発見隊～あなたのまちのコンシェルジュ～」のページを立ち上げることができた。</li> <li>・市内大学生の若い頭脳により、インターネットでの情報発信キャラクター「デジタル ワン」が誕生した。</li> <li>・フェイスブックページに市内の活動団体への投稿を呼びかけ、サイトの活性を図った。</li> <li>・FBのようなSNSを活用したことが無い人たちにとっては、新しい手法が見えたかもしれない。</li> <li>・各団体の活動がもっと掲載され盛り上がりを見せたり、ページ登録をして閲覧する人数を増やす活動に時間を割けばよかった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・フェイスブックページの切れ目ない持続と更なる活性を図るための努力が望まれる。</li> <li>・新しい活動計画で、FBページの活用の話が出たら、ぜひ引き継いで頂きたい。</li> </ul>